

再度チェック！ 非常時の持出品

非常時には、慌てて何を持って避難すればよいか分からなくなるのではないのでしょうか？

「備えあれば、憂いなし」準備されている人も、再度確認しましょう。

▶持出品リスト

- 飲料水(少なくとも3日分)
- 食糧(少なくとも3日分)
- 現金
- 携帯電話・充電器
- 携帯ラジオ
- 懐中電灯
- 電池
- 非常持出し袋
- 印鑑・預貯金通帳
- 衣服
- 靴・スリッパ
- タオル・手袋・ポリ袋
- ティッシュ・生理用品
- カップ・ヘルメット
- 固形燃料
- 缶切り
- マッチ・ライター
- 予備の眼鏡・コンタクトレンズ
- メモ帳・筆記用具
- 石鹸・水のいらないシャンプー
- 粉ミルク・ほ乳びん・紙おむつ
- 救急医療品

その他にも、自分で必要だと思うものは準備しておきましょう。

大火は繰り返さない



井上直久さん(菅浜区)

この取組みは、今から83年前の1925年(大正14年)5月31日に、集落の約9割を焼失した大火から始まったと言われています。父が生前書き記した日記と、これまで聞いてきた話によると、その日、火は午後2時頃に出火。2時間余りで当時125戸あった民家の内、105戸を焼失しました。ちょうどその頃は、田植えが始まったところで、多くの人は集落から離れた山間の田んぼに出かけており、火事の連絡が入ったところには、すでに一帯が火の海だった

たそうです。火は出火元から順につくだけでなく、飛び火により燃え広がりました。日記にも、「火の回りが早く手が付けられなかった。」とあります。幸いにも、けが人は出ませんでした。したが、多くの人は、その夜浜辺で一夜を明かしたそうです。菅浜区では、それ以降、火災の被害を教訓に集落内を、「北所」「南所」「松の下」の3つに分け、区民が火の用心を呼び掛ける見回りを続けています。毎日、朝夕に「カチ、カチ」と拍子木をたたき、時には声をかけながら見回ります。

※火の用心は、菅浜区以外でも取り組まれています。区全体では、丹生区と竹波区。区の一部で行われているところは、新庄区と日向区です。



▲父・久左衛門さんの日記帳

菅浜区が取り組んでいる夜番(火の用心)について、井上直久さんに話をお聞きました。

菅浜区では、各家の当番制で毎日朝夕の2回夜番(火の用心)を行っています。

度と火事を起こしてはいけないという防災意識は既に根付いています。また、この活動を通して集落全体の連帯感も高まっていると思います。今後、区民一体となった防災活動が続いていくことを願っています。

美浜中学生が海外で交流し、生活・文化を学ぶ

台湾石門郷ホームステイ



〈台湾桃園国際空港にて〉

7月30日から8月5日までの7日間、美浜中学校の生徒16人が本町と姉妹都市提携を結んでいる台湾石門郷を訪問しました。

今回の訪問は、町の将来を担う美浜中学生が石門国民中学生と交流を深めるとともに、海外の訪問先における生活や文化・施設等について見聞を広めることや、ホームステイなどの交歓・交流活動を通して、社会性・協調性を養い、新しい時代を築く心豊かでたくましい人材を養成することを目的に行われています。

美浜中学生の石門郷訪問は、平成2年以降1年おきに行われており、今回で10回目となりました。

石門郷ってどんなところ？



石門郷は、台湾の最北端に位置し、面積は51.26km(美浜町の約1/3)、人口は11,830人で美浜町とほぼ同じです。

山や丘が多く、お茶の栽培に適しており烏龍茶が特産品になっています。また、海に面しているため、魚介類が豊富です。12kmにも及ぶ海岸線は、景観がすばらしく絶好の避暑地になっています。

本町とは、お互いに原子力発電所が立地していることをきっかけに、昭和63年8月に姉妹都市提携を結び、以降交流を深めています。



石門郷の名前の由来となった「石門洞」波により岩が削られ穴が開いたと言い伝えられています。

生徒たちの現地での様子とその感想を紹介します

7/30

台湾桃園国際空港に到着すると石門郷からの出迎えがあり、生徒たちは今回のホームステイでパートナーとなる石門国民中学生と初顔合わせをしました。

昼食後、鶯歌陶器博物館などを見学し、台北市内のホテルに宿泊しました。

●初めて乗る飛行機は、とにかく怖かったです。特に、着陸する時、耳が痛くて大変でした。

●空港に着くと台湾の子たちが日本語であいさつをしてくれました。荷物も持ってくれたりして、私は感激しました。

●初めて台湾の子と会った時は、とても緊張しました。中国語では「你好」と「謝謝」しか言えなくて、どうしようかと思いましたが、笑顔で接してくれて安心しました。

●鶯歌陶器博物館では、イヤホン付の音声機器があったのでいろいろなことを学ぶことができました。

7/31

コカ・コーラ博物館などを見学後、今回の目的地である石門郷に向かいました。夜には、美浜町一行を歓迎する晩餐会が開かれました。

●コカ・コーラ博物館でいろいろな物を見ました。例えば、コーラのパッケージ。大きさも長さもさまざまでした。

●晩餐会では、台湾料理が次々に出てきて、どれを食べてよいか迷いました。どれも、とてもおいしかったです。



歓迎晩餐会のようす

8/1

石門郷役場で、歓迎会が行われました。その後、野柳海洋世界水族館を見学しました。

また、この日からは、石門国民中学生宅へのホームステイが始まりました。

●歓迎会で、中国語で自己紹介をしました。うまく伝わっているか分かりませんが、石門郷の人に「発音上手だよ。どこかで習っているの?」と言われ、うれしかったです。

●野柳海洋世界では、アシカのショーが見られました。日本でも見られますが、ここでは人間のシンク口などのショーもあり、とても楽しかったです。



中国語で自己紹介



アシカショーに特別参加

●ドキドキのホームステイだったけど、みんな明るくてやさしいので少し気持ちが楽になりました。

●ホームステイ初日で、緊張とホームシックで泣けてきました。やっぱり家族は自分にとって何よりも大切でかけがえのないものだと感じました。



家族みんなで、はいチーズ!

(美浜町)



美浜中学校

2年 森 一将さん

○ホームステイ事業に参加して

このホームステイ事業は、とても充実した毎日でした。

空港でパートナーと会い、最初はお互いに緊張していましたが、いろいろな施設を見学したり、体験学習を通して仲良くなっていきました。言葉が通じにくい分、気持ちを何とか伝えようと、いただいた「指差し会話帳」や身振り手振りでコミュニケーションをとりました。漢字の筆談でもかなり通じたことがうれしかったです。

ホームステイ先では、みんながにこやかに接してくださり、日本語が話せる親戚のおじいさん家族も訪ねて来られるなど、楽しく過ごしました。

2月に石門国民中学校の人たちが来日する時には、今度は僕たちが美浜の、そして日本のすばらしさを伝え喜んでもらいたいと思っています。

最後にこのような交流事業に参加する機会を与えていただき、本当にありがとうございました。

8/2

この日は、台北市へ移動し故宮博物館などを見学しました。その後、世界一高い建物で有名な「台北101」を訪問しました。

●故宮博物館には、昔の銅鐸や銅鏡などが展示されていました。教科書に載っているのを直に見れてうれしかったです。

●門のところまで立っている兵士の人、汗を流しながらも少しも動かないところがすごかったです。よく耐えられるなど思っています。

●台北101は、世界1位だけあってすごく高かったです。見上げていたら、首が痛くなりませんでした。

台北101 (高さ・531.3m)



8/3

ホームステイ先から、石門国民中学校に登校し「粽作り」や「新粉(粘土)細作り」などの体験学習を行いました。

3日目を迎えたホームステイもこの夜が最後になりました。

●粽作りは、作り方が分かっているても、巻き方がとても難しかったです。



●獅子舞は、すごく迫力があって素敵でした。日本の獅子舞と比べると大きさや早さ、動作なども全然違っておもしろかったです。

●今日でホームステイが最後なんて、とても悲しいです。家族の人には、とても気をつけてもらったし、お世話になりました。家庭料理もとてもおいしかったです。もっとホームステイをしてみたいです。



美浜中学校

保護者 森 祥代さん

○子どもを台湾へ送り出して

このホームステイ事業に参加させていただくことになり、恥ずかしながら、姉妹都市になった経緯や台湾の歴史、使用言語について初めて知ることができました。それと同時に、覚えていく中国語が通じないかも知れないなど親として内心不安もありましたが、文字通り「かわいい子には旅をさせる」の心境で送り出しました。

帰国してから、ホームステイ先でも歓迎していただいた話を聞いたり、美浜中と石門中の子ども達が肩を組んで楽しそうに笑っているスナップ写真を見て、今回参加させて頂けたことに改めて感謝しています。

そして今、一将のパートナーを含め知り合った友達や通訳の方とのメールでの交流は続いています。

2月には、こちらが受け入れる番です。お世話になった感謝を歓迎でお返しさせて頂き、この交流事業が続いていくことを願っています。

(石門郷)



石門国民中学校

2年
林秋雨さん

○ホームステイ事業に参加して

今回のホームステイ事業に参加でき、とてもよかったです。

皆さんがいてくれたおかげで私たちは楽しい一週間が過ごせました。言葉が通じなくても、「笑顔」がコミュニケーションのかけ橋となり、私たちの距離を縮ませることができました。

この一週間、私たちは、それぞれ良い思い出を作ることができました。

来年、日本へ行くことになりました。いろいろとご迷惑をかけることがありますが、どうぞよろしく願います。



石門国民中学校

PTA副会長
江萬枝さん

○美浜中学生を受入れて

最初は、言葉が通じなくて、とても不安でした。しかし、日本の子どもたちはいつも素晴らしい笑顔をし、一生懸命手や本などを使って私たちと交流をします。いつの間にか、心の中の不安感がなくなりました。短い時間でしたが、私たちは精一杯おもてなしをしたつもりです。子どもたちもたくさんの思い出が作れたのではないのでしょうか？

来年2月、石門国民中学生が日本を訪問しますので、日本のことをたくさん教えてあげてください。

どうぞよろしく願います。

今回の訪問で、生徒たちは異なる文化や言語など、初めての経験に戸惑いながらも多くのことを体験し、ホームステイなどを通して友情を育みました。

来年2月には、さらなる友好を築くために石門国民中学校の生徒が本町を訪れる予定です。

- 台湾の原子力発電の映像を見て、いろんなこと計算されてすごいなと思いました。
- 風力発電は近くで見ると想像以上に大きかったので、びっくりしました。
- 夕食会の時、僕らが「ハナミズキ」を歌い終わった頃には、もうほとんどの人が泣いていました。

石門郷内にある台湾電力発電所と石門風力発電所を見学後、台北市に移動し、台湾政府を訪問しました。

この日は、台湾での最後の夜となったため、夕食会では明日別れる寂しさから涙をうかべる生徒もいました。

8/4



美浜中学生全員で「ハナミズキ」を熱唱

ました。まだ明日もあるのに、本当にお別れするようで嫌でした。心と心が通じているから、みんなお別れが悲しいんだと思いました。

- 空港に入ってから、ずっと我慢していた涙。みんなの表情や心が伝わってきて一気に溢れ出しました。とても悲しかったけれど、その涙の分だけの沢山の思い出を持って日本に帰って来
- 最後は、笑顔で別れたかったけど、涙が止まりませんでした。石門中の人たちは私たちが見えなくなるまで手をふつてくれていました。今度会うのは2月・・・。それまで元気でね。

8/5

石門郷役場での歓送会終了後、台湾桃園国際空港へ行き、生徒たちはパートナーに見送られ日本への帰路につきました。

空港では、台湾での思い出が溢れ出し、涙の別れとなりました。



来年、また会おうね

れたんだと思うと少しうれしくなりました。みんな、本当にありがとう。謝謝！

平成20年
第4回 美浜町議会臨時会

平成20年第4回美浜町議会臨時会が7月14日に開会され、次の内容について審議・議決されました。

あおなみ保育園建築工事請負契約

1. 契約の目的 あおなみ保育園建築工事
2. 契約の方法 制限付き一般競争入札による契約
3. 契約金額 278,019,000円
4. 契約の相手方 福井県敦賀市津内47号7番地1
村中建設株式会社 敦賀営業所
所長 林 利成

美浜町農業委員の推薦について

農業委員会等に関する法律第12条第2号の規定による議会推薦の農業委員に次の4人の方が推薦されました。

氏名(住所)
石丸 勢津子氏(山上)
平城 美智子氏(金山)
松下 勝美氏(久々子)
辻 健一郎氏(佐田)

美浜町農業委員会委員

(任期 平成20年7月20日～平成23年7月19日)

【選挙による委員】

美浜町農業委員会委員の任期満了(平成20年7月19日)による平成20年7月6日執行の美浜町農業委員会委員の一般選挙については、下記の10人の方が立候補され、無投票で当選されました。

- ・奥村 善孝氏(麻生)・畑中 豊氏(竹波)
- ・竹仲 良廣氏(南市)・橋本 司郎氏(久々子)
- ・山崎 政治氏(太田)・今村 正憲氏(大藪)
- ・藤本 悟氏(新庄)・桃井 和幸氏(北田)
- ・野寄 俊一氏(上野)・八木 鉄夫氏(郷市)

【選任による委員】

選挙による委員のほか、団体の推薦により次の方々を農業委員会委員として選任されました。

〈若狭美浜町農業協同組合推薦〉

・山口 富也氏(太田)

〈美浜中部土地改良区推薦〉

・大同 貞男氏(木野)

〈美浜町議会推薦〉

・石丸 勢津子氏(山上)・平城 美智子氏(金山)

・松下 勝美氏(久々子)・辻 健一郎氏(佐田)

なお、7月28日に開催された美浜町農業委員会総会で、会長に大同貞男氏、副会長に野寄俊一氏が就任されました。



関西美浜会総会が開催されました

本町出身で現在、関西圏にお住まいの方で構成される「関西美浜会」(田邊正義会長(坂尻出身)・会員数90人)の平成20年度総会及び懇親会が7月19日に大阪市で開催され、来賓を含め41人が参加されました。

総会では、会員相互の親睦を図る催しなど、本年度の事業計画等が承認されました。また、町からは、平成20年5月からスタートしたふるさと納税制度の説明を行い「ふるさと美浜」のまちづくりについて、協力を求めました。

その後行われた懇親会では、山口町長と中村議長が町の現状を報告。町長は「今年は数多くのイベントを企画しています。是非とも参加して、ふるさとを再認識してほしい。」と呼びかけました。参加された方々は、それぞれの近況を話し合い、親睦を深めていました。

同会では、美浜町出身で、関西圏にお住まいの方を対象に会員募集をしています。ご本人をはじめ、ご親戚やご友人の方がおられましたら、お気軽にご連絡ください。

※ご連絡先

・関西美浜会会長 田邊正義氏
 ☎ 072-843-9740
 FAX 072-841-7429
 ・町企画政策課(担当・西村)

☎ 32-6701

住民による環境活動を推進する

『美浜環境パートナーシップ会議』設立

町

では、自然景観の保全や地球温暖化の防止などの環境対策を住民側の立場で考え、実行していくための組織として、このほど美浜環境パートナーシップ会議を設立しました。

このパートナーシップ会議は、現在環境に関する活動を行なっている町内の団体や事業所および環境問題に関心を持つ町民（公募）16人で構成し、各団体が、自主的に行なっている活動に対しての支援や新たな環境活動を行なうための組織です。

6月24日に開催しました第1回会議では、山口町長からの委嘱状が各委員に渡されたあと、委員の互選により、委員長に「美浜の環境を守る会」の松井明彦氏、副委員長に「みはまくらしの研究サークル」の石丸清美氏が選任されました。

その後、それぞれの団体が現在行なっている環境活動の紹介や環境に対する意見交換を行い、今後進めていくべき環境活動を探りました。

その中で、まず、この組織を

効率的に活動できるようにするため、先進的に取り組んでいる「福井市環境パートナーシップ会議」（福井市）を視察することとしました。

福井市視察研修

福井市では、平成13年に福井市環境パートナーシップ会議（FEP S）を設立し、現在ではいくつかの組織改変などを経て、5つのプロジェクトを進めています。

その中の「環境教育ネットワークプロジェクト」では環境に関する学習会を開催。「環境ISOプロジェクト」では、家庭版ISOとして家庭における節電や節水などのエコライフを推進しています。

その他に「福井2050プロジェクト」「エコイベント推進プロジェクト」「新エネ啓発プロジェクト」があり、地域の生き物調査や「大切にしたい水と緑の憩いのマップ」の製作など環境に関する幅広い取り組みを行政と協力しながら実施しています。

当日、福井市の職員からパートナーシップ会議の組織や活動について説明を受けたあと、参加した約20人の福井市環境パートナーシップ会議のメンバーとの意見交換を行いました。

視察研修の様子



今後、美浜環境パートナーシップ会議では、役場内の環境施策を検討する庁内推進会議と連携を図りながら町の環境活動を検討し、地域の再生利用等推進リーダーを通じて町民の皆さんに推進していく予定となっています。

※お問い合わせ先

町住民安全課（担当・田辺）

☎ 32-6703



委員長
松井 明彦 氏

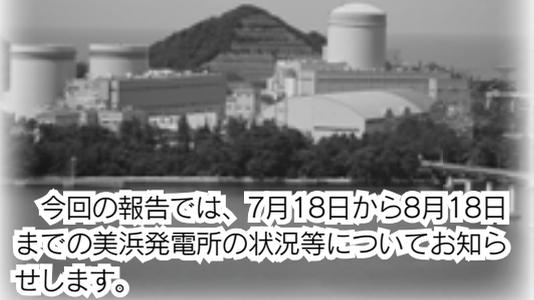
私たちが将来にわたって、健康で豊かな生活を送り続けたいと望むなら、環境問題は避けて通れません。

温暖化、砂漠化、異常気象、森林破壊、水質汚染、化学物質汚染など、それぞれ関係しながら環境問題はどんどん深刻な状況へと進んでいます。

このままでは、自然災害の増大、経済への打撃、さらには健康への直接的な影響や食糧危機など私たちの生活が立ちゆかなくなる可能性も否定できません。

しかし、今ならまだ間に合おうと信じ、問題の共有と解決に向けて、何が出来るかを提案し、町民の皆さんと共に取り組んでいくべく、パートナーシップ会議を進めて参ります。

美浜発電所の状況



今回の報告では、7月18日から8月18日までの美浜発電所の状況等についてお知らせします。

美浜1号機

定格熱出力一定運転中

(平成20年7月18日～)

平成20年3月25日より第23回定期検査が実施され、6月23日から調整運転が行われていましたが、7月18日に国の最終検査に合格し、本格運転が再開されました。

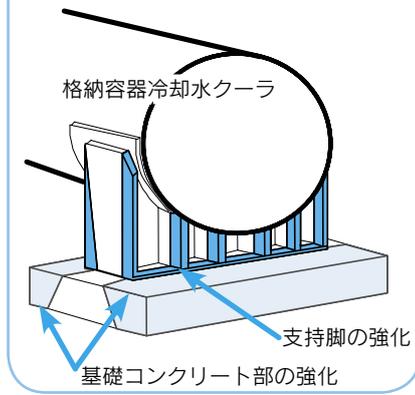
美浜2号機

第24回定期検査中

(平成19年7月20日～)

平成20年7月28日に原子炉が起動され、7月30日から調整運転が行われています。国の最終検査が8月下旬に予定されており、これに合格することで本格運転が再開されます。

【耐震性を向上させる工事】



機器を支える脚に鋼材の溶接や、基礎コンクリート部を大きくして補強したり、配管やダクトにサポート部材を追加するなどして、現在の設備の地震に対する強度をより一層向上させるための補強工事が行われました。

耐震裕度向上工事

今回の定期検査では、設備全般の点検が行われたほか、現在の設備の地震に対する強度をより一層向上させるための補強工事や、大型機器の取替工事、配管の肉厚測定検査や新しい配管への取替などの工事が行われました。

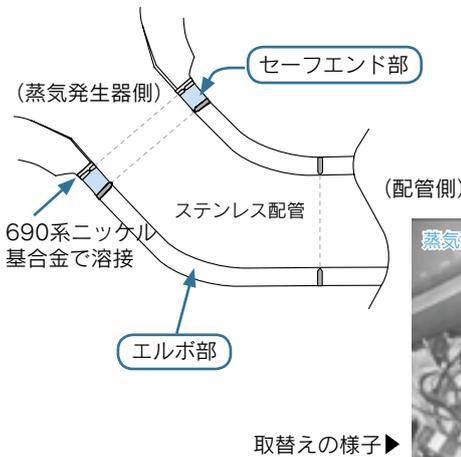
なお、当初の計画では、平成19年11月下旬に定期検査が終了する予定でしたが、A-1蒸気発生器入口管台溶接部で傷が見つかり、その対応のために定期検査期間が延長されています。

原子炉容器管台溶接部等の

予防保全工事

A-1蒸気発生器入口管台溶接部で見つかった傷（広報2007年11月号、2008年3月号参照）については、その傷が認められた溶接部から配管のエルボ部までを新品に取替え、蒸気発生器とセーフエンド部の溶接部は、より耐久性に優れた690系ニッケル基合金で溶接が行われました。

その他の管台溶接部（原子炉容器・蒸気発生器）については、予防保全対策として溶接部表面の残留応力を低減させる工事が実施されました。



高圧給水加熱器取替工事

タービンを回し終えた蒸気は、復水器で冷やされて水（約40℃）に戻りますが、再び蒸気発生器に送られるときに、蒸気発生器の細管内を通る1次系水（約300℃）との温度差が大きくと、衝撃力となって設備に悪い影響を与えます。これを防ぐため、また、蒸気を効率よく利用するために復水器を出た水（温水）は、低圧タービンと高圧タービンから取出された蒸気（抽気）を使って、徐々に温められる仕組みになっています。

高圧給水加熱器は、2次系水を温める仕組みの中でも最終の設備で、蒸気発生器に入る直前に設置されており、ここを通ることで約220℃まで加熱されます。

今回の工事は、平成15年5月に同2号機で、1,600本ある伝熱管のうちの1本に漏えいが発生したトラブルに対し、その抜本対策として行われたもので、高圧給水加熱器（2基）の伝熱管を銅合金製から耐食性に優れたステンレス鋼製のものに新しく取替えられました。